



0

- [offer call-hold](#) (2 ページ)
- [operation](#) (4 ページ)
- [options-ping](#) (5 ページ)
- [options-ping \(dial-peer\)](#) (7 ページ)
- [発信プロキシ](#) (8 ページ)
- [発信再試行間隔](#) (11 ページ)
- [outgoing called-number](#) (13 ページ)
- [発信呼び出し番号](#) (15 ページ)
- [発信ダイヤルピア](#) (17 ページ)
- [発信メディア ローカル IPv4](#) (19 ページ)
- [outgoing media remote ipv4](#) (21 ページ)
- [発信ポート](#) (23 ページ)
- [outgoing signaling local ipv4](#) (26 ページ)
- [outgoing signaling remote ipv4](#) (28 ページ)
- [output attenuation](#) (30 ページ)
- [オーバーヘッド](#) (33 ページ)

offer call-hold

POTS-SIP ゲートウェイが通話保留要求を開始する方法をグローバルに指定するには、SIP ユーザエージェント設定モードまたは音声クラステナント設定モードで **offer通話保留** コマンドを使用します。通話保留を開始する方法を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

offercall-hold {conn-addr | direction-attr | system}

いいえ **offer**call-hold {conn-addr | direction-attr | system}

構文の説明

conn-addr	発信保留要求を開始するための接続アドレスを使用する RFC 2543 方式を指定します。RFC 2543 方式では 0.0.0.0 を使用します。
direction-attr	通話保留要求を開始するために、方向属性 (a=sendonly) を使用する現在の RFC 3264 方式を指定します。
システム	通話保留要求がグローバル sip-ua 値を使用する方法を指定します。このキーワードは、グローバル設定にフォールバックできるテナント モードでのみ使用可能です。

コマンド デフォルト

direction-attr

コマンド モード

SIP ユーザエージェントの構成

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco POTS-SIP ゲートウェイは 2 つの形式のいずれかでの保留要求の受信をサポートしますが、方向属性の使用を推奨します。コールホールド形式の指定は、グローバルに [**offer**call-Hold] コマンドでのみ可能です。構成はダイヤルピア レベルで利用できません。

例

次の例では、セッション記述プロトコル (SDP) で a=sendonly を送信するようにゲートウェイを構成することで、通話保留を開始します。現在、優先されているコール保留を開始する方法として、**direction-attr** キーワードを使用する方法があります。

```
sip-ua
  retry invite 3
  offer call-hold direction-attr
```

次の例では、c= の行に IP アドレスとして 0.0.0.0 を送信するようにゲートウェイを設定することで、コール保留を開始します。

```
sip-ua
  retry invite 3
  offer call-hold conn-addr
```

次の例では、音声クラステナント構成モードでゲートウェイを構成することで、コール保留を開始します。

```
Router(config-class)# offer call-hold system
```

関連コマンド

コマンド	説明
show sip-ua status	SIP UA の状況を表示します。
suspend-resume	SIP の中断および再開機能を有効にします。

operation

E&Mポートに特定のケーブル接続スキームを選択するには、音声ポート設定モードで **operation** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

operation {2 線式 | 4 線式}

no operation {2 線式 | 4 線式}

構文の説明

2-wire	2 線式 E&M 配線スキーム。
4-wire	4 線式 E&M 配線スキーム。

コマンド デフォルト

2 線式 E&M ケーブル配線スキーム

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは音声トラフィックにのみ影響します。シグナリングは2線式と4線式の設定から独立しています。間違ったケーブルスキームが指定されている場合、ユーザは音声トラフィックを一方にしか受信しない可能性があります。

音声ポートでこのコマンドを使用すると、VPM カードの両方の音声ポートの動作が変わります。新しい値を有効にするには、音声ポートをシャットダウンして再度開く必要があります。

定義により、2 線式インターフェイスであるため、このコマンドは FXS または FXO インターフェイスには適用できません。

例

次の例では、E&M ポートで 4 線式ケーブルスキームを使用することを指定しています:

```
voice-port 1/0/0
 operation 4-wire
```

次の例では、E&M ポートが 2 線式ケーブルスキームを使用することを指定しています:

```
voice-port 1/1
 operation 2-wire
```

options-ping

ダイアログ内オプションを有効にするには、グローバル設定モードまたは音声クラステナント設定モードで **options-ping** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

options-ping秒 [システム]

いいえ**options-ping**秒 [システム]

構文の説明

秒	OPTIONS トランザクションが送信される間隔 (秒)。範囲は 60-1200 で、デフォルトはありません。
システム	ダイアログ内のOPTIONSがグローバルなsip-uaの値を使用するように指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト

このコマンドはデフォルトでは無効になっています。

コマンド モード

グローバル

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)T	このコマンドが導入されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

ダイアログ内のOPTIONS更新コマンドは、RTP/RTCPメディアの非アクティブタイマーとセッションタイマーに対する代替の更新メカニズムを有効にし、SIP-to-SIPおよびSIP-to-H.323の通話で使用できます。ダイアログ内のOPTIONSメソッドによる更新はホップ間のみを意図しており、エンド間ではありません。セッションタイマーが同様の結果を達成するので、セッションタイマーがネゴシエートされるとき、OPTIONSs 更新/ping は適用されません。H.323 エンドポイントでの動作は、TDM-SIP コールと同様です。ダイアログ内のOPTIONSの生成がグローバルレベルまたはダイヤルピアレベルで有効化されます。システムのデフォルト設定は無効になっています。この機能は、TDM 音声ゲートウェイと IP-to-IP ゲートウェイの両方で使用できます。

例

次の例では、インダイアログリフレッシュタイムを 60 秒に設定します。

```
Router (conf-serv-sip) # options-ping
```

次の例では、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードでダイアログ内リフレッシュ時間を設定します。

```
Router(conf-class)# options-ping system
```

関連コマンド

コマンド	説明
options-ping	in-dialog OPTIONS をグローバルレベルで有効にします。
options-ping(dialpeer)	ダイヤルピアのダイアログ内 OPTIONS を有効にします。

options-ping (dial-peer)

ダイアログ内の OPTIONS を有効にするには、グローバル設定モードで **options-ping** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

options-ping秒

いいえ**options-ping**秒

構文の説明

秒	OPTIONS トランザクションが送信される間隔 (秒)。範囲は 60-1200 で、デフォルトはありません。
---	---

コマンド デフォルト

このコマンドはデフォルトでは無効になっています。

コマンド モード

ダイヤル ピア コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ダイアログ内の OPTIONS 更新コマンドは、RTP/RTCP メディアの非アクティブタイマーとセッションタイマーに対する代替の更新メカニズムを有効にし、SIP-to-SIP および SIP-to-H.323 の通話で使用できます。ダイアログ内の OPTIONS メソッドによる更新はホップ間のみを意図しており、エンド間ではありません。セッションタイマーが同様の結果を達成するので、セッションタイマーがネゴシエートされる時、OPTIONS 更新/ping は適用されません。H.323 エンドポイントでの動作は、TDM-SIP コールと同様です。ダイアログ内の OPTIONS の生成がグローバルレベルまたはダイヤルピアレベルで有効化されます。システムのデフォルト設定は無効になっています。この機能は、TDM 音声ゲートウェイと IP-to-IP ゲートウェイの両方で使用できます。

例

次の例では、インダイアログリフレッシュタイムを 60 秒に設定します。

```
Router(conf-serv-sip)# options-ping 60
```

関連コマンド

コマンド	説明
options-ping	in-dialog OPTIONS をグローバルレベルで有効にします。
options-ping(dialpeer)	in-dialog OPTIONS をダイヤルピアで有効にします。

発信プロキシ

Cisco IOS 音声ゲートウェイで、グローバルに発信 SIP メッセージ用の Session Initiation Protocol (SIP) アウトバウンドプロキシを設定するには、音声サービス SIP 設定モードまたは音声クラステナントコンフィギュレーションモードで**アウトバウンドプロキシ** コマンドを使用します。SIP アウトバウンドプロキシへの SIP メッセージの転送を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信プロキシ {dhcp | ipv4:IP アドレス[:ポート番号 | dns:ホスト:ドメイン[再利用]]} [システム]
いいえ発信プロキシ

構文の説明

dhcp	Cisco IOS 音声ゲートウェイに SIP 発信プロキシをグローバルに指定します。すべての SIP ダイアログ開始要求は DHCP 経由で取得した SIP サーバに送信されます。
ipv4:ip-address	Cisco IOS 音声ゲートウェイに SIP 発信プロキシをグローバルに指定します。すべての SIP ダイアログ開始要求はこの IP アドレスに送信されます。コロンが必要です。
:ポート番号	(オプション) すべての SIP ダイアログ開始リクエストが指定した IP アドレスに送信されるポートです。ポート番号の範囲は 0 から 65535 までです。デフォルトは 5060 です。コロンは必須です。
dns:host:domain	Cisco IOS 音声ゲートウェイに SIP 発信プロキシをグローバルに指定します。すべての開始要求は、指定された宛先ドメインに送信されます。コロンが必要です。
reuse	(オプション) 以降のすべての登録更新と呼び出しで、登録時に確立された発信プロキシアドレスを再利用します。
システム	発信 SIP メッセージの発信プロキシがグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト

Cisco IOS 音声ゲートウェイは発信 SIP メッセージをプロキシに転送しません。

コマンド モード

音声サービス VoIP SIP 構成 (conf-serv-sip)

音声クラステナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)T	このコマンドが導入されました。
12.4(22)T	IPv6 のサポートが追加されました。

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドは変更されました。 dhcp キーワードが追加されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。
15.1(2)T	このコマンドは変更されました。 reuse キーワードが追加されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

outbound-proxy コマンドを音声サービス SIP 構成モードで使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイに対してグローバルに発信プロキシ設定を指定することができます。

voice-classsipoutbound-proxy コマンドをダイヤルピア音声構成モードで使用して、ゲートウェイのグローバル設定を上書きまたは保留する個々のダイヤルピア用の設定を構成することもできます。ただし、Cisco Unified Communications Manager Express (CME) と SIP ゲートウェイの両方が同じルーター上で構成されている場合、回線側の電話からの着信 SIP メッセージが、ネットワークから着信する SIP メッセージと混同される可能性があります。このシナリオによる通話の失敗を避けるには、**発信プロキシシステム** コマンドを使用して、ダイヤルピア上のすべての回線側の電話の SIP 発信プロキシ設定を無効にします。このコマンドは、音声登録グローバル設定モードで使用します。

例

次の例は、IP アドレスを使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイに対して SIP 発信プロキシをグローバルに指定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# outbound
-proxyipv4
:10.1.1.1
```

次の例は、宛先ホスト名とドメインを使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイに対して SIP 発信プロキシをグローバルに指定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# outbound
-proxydns:sipproxy:example.com
```

次の例は、DHCP プロトコルを使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイに対して SIP 発信プロキシをグローバルに指定する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# voicemailservicevoip
Router(config-voi-serv)# sip
Router(config-serv-sip)# outbound
~proxydhcp
```

次に、音声クラステナント コンフィギュレーション モードで SIP 発信プロキシをグローバルに指定する例を示します。

```
Router(config-class)# outbound-proxy system
```

関連コマンド

コマンド	説明
発信プロキシシステム	Cisco Unified CME 回線側 SIP 電話が、Cisco IOS 音声ゲートウェイ用にグローバルに構成された発信プロキシ設定を使用するかどうかを指定します。
voice-classsipoutbound-proxy	Cisco IOS 音声ゲートウェイのグローバル設定を上書きする、個々のダイヤルピアの SIP 発信プロキシ設定を構成します。

発信再試行間隔

ボーダー要素間の外線関係を確立するための再試行期間を定義するには、Annex G近隣サービス設定モードで **outboundretry-interval** コマンドを使用します。このコマンドを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

アウトバウンド再試行間隔間隔
いいえアウトバウンド再試行間隔

構文の説明

間隔	アウトバウンドリレーションシップを確立するための時間 (秒)。範囲は 1 から 2147483 です。デフォルトは 30 です。
----	--

コマンド デフォルト

30 秒

コマンド モード

付録G近隣サービス構成 (config-nxg-neigh-svc)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

サービス関係は単方向であると定義されます。境界要素 A と境界要素 B の間にサービス関係が確立されると、A は B に要求を送信し、応答を期待することができます。B が A に要求を送信し、応答を期待する場合、2 番目のサービス関係を確立する必要があります。A の観点から、B と確立するサービス関係は「アウトバウンド」サービス関係として指定されます。

このコマンドを使用して、ボーダーエレメント間の外向きの関係を確立するための再試行期間を設定します。

例

次に、再試行の間隔を 300 秒 (5 分) に設定する例を示します。

```
Router(config-nxg-neigh-svc)
#
outbound retry-interval 300
```

関連コマンド

コマンド	説明
access-policy	ネイバーが明示的に設定されている必要があります。
inboundttl	インバウンドの Time to Live 値を設定します。
retryinterval	配信の試行間隔を定義します。
再試行ウィンドウ	ボーダー要素が配信を試みる合計時間を定義します。

コマンド	説明
service-relationship	2つのボーダーエレメント間にサービス関係を確立します。
シャットダウン	ボーダー要素を有効または無効にします。

outgoing called-number

発信番号のデバッグ フィルタリングを設定するには、コール フィルタ マッチ リスト コンフィギュレーション モードで発信番号コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信called-number文字列

いいえ発信called-number文字列

構文の説明

文字列	E.164またはプライベートダイヤルプランの電話番号のパターンを指定する一連の数字。有効な値は09の数字、AからDの文字、および次の特殊文字です: - 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されるアスタリスク (*) およびポンド記号 (#) です。Cisco 3600 シリーズルーターに限り、これらの文字を文字列の先頭文字として使用することはできません (例、*650)。 - カンマ (,) は、桁間にポーズを挿入します。 - ピリオド (.), 入力した任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。Cisco 3600 シリーズルーターでは、文字列の先頭にピリオドを使用することはできません (例えば、.650)。 - パーセント記号 (%): 直前の数字が0回以上出現することを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 - 正符号 (+)、直前の数字が1回以上繰り返されることを示します。 (注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示すために、その前に使用されるプラス記号とは異なります。 - サーカムフレックス (^)、文字列の先頭一致を示します。 - 入力文字列の最後のヌル文字列に一致するドル記号 (\$)。 - バックスラッシュ記号 (\) の後に1文字が続きます。その文字と一致します。他の意味を持たない1文字と共に使用できます (その文字に一致)。 - 前の数字が0回または1回出現したことを示す疑問符 (?)。 - 範囲を示す大括弧 ([]) 範囲は角括弧で囲まれた一連の文字です。範囲には数値文字の0から9までのみが許可されます。 - 括弧 () はパターンを示し、正規表現ルールと同じです。
-----	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンドモード

通話フィルター一致リスト

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

発信番号は、番号の変換と拡張の後に発信されます。

例

次の例は、発信番号 8288807 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
outgoing called-number 8288807
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfilter マッチリスト 音声	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
デバッグ条件 マッチリスト	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
incomingcalled-number (callfiltermatchlist)	着信先番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
着信発信者番号	着信発信番号のデバッグ フィルタリングを構成します。
着信ダイヤルピア	着信ダイヤル ピアのデバッグ フィルタリングを設定します。
incomingsecondary-called-number	2 ステージシナリオの第2ステージからの着信呼び出し番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoingcalling-number	発信された番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
outgoingdialpeer	着信ダイヤル ピアのデバッグ フィルタリングを設定します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

発信呼び出し番号

発信発番号のデバッグ フィルタリングを設定するには、コール フィルタ マッチ リスト コンフィギュレーション モードで発信発番号コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信発番号文字列

いいえ発信発番号文字列

構文の説明

文字列	E.164またはプライベートダイヤルプランの電話番号のパターンを指定する一連の数字。有効な値は09の数字、AからDの文字、および次の特殊文字です: - 標準のタッチトーンダイヤルパッドに表示されるアスタリスク (*) およびポンド記号 (#) です。Cisco 3600 シリーズルーターに限り、これらの文字を文字列の先頭文字として使用することはできません (例、*650)。 - カンマ (,) は、桁間にポーズを挿入します。 - ピリオド (.), 入力した任意の数字と一致します (この文字はワイルドカードとして使用されます)。Cisco 3600 シリーズルーターでは、文字列の先頭にピリオドを使用することはできません (例えば、.650)。 - パーセント記号 (%): 直前の数字が0回以上出現することを示します。ワイルドカードの使用法に似ています。 - 正符号 (+)、直前の数字が1回以上繰り返されることを示します。 (注) 数字列の一部として使用されるプラス記号は、その文字列が E.164 標準番号であることを示すために、その前に使用されるプラス記号とは異なります。 - サーカムフレックス (^)、文字列の先頭一致を示します。 - 入力文字列の最後のヌル文字列に一致するドル記号 (\$)。 - バックスラッシュ記号 (\) の後に1文字が続きます。その文字と一致します。他の意味を持たない1文字と共に使用できます (その文字に一致)。 - 前の数字が0回または1回重複する場合に使用する疑問符 (?)。 - 範囲を示す大括弧 ([]) 範囲は角括弧で囲まれた一連の文字です。範囲には数値文字の0から9までのみが許可されます。 - 括弧 () はパターンを示し、正規表現ルールと同じです。
-----	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンドモード

通話フィルター一致リスト

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

発信番号は、番号の変換と拡張の後に発信されます。

例

次の例は、発信番号 5550124 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
outgoing calling-number 5550124
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfilter マッチリスト 音声	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
デバッグ条件 マッチリスト	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
incomingcalled-number (callfiltermatchlist)	着信先番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
incomingcalling-number	着信発信番号のデバッグ フィルタリングを構成します。
着信ダイヤルピア	着信ダイヤル ピアのデバッグ フィルタリングを設定します。
incomingsecondary-called-number	2 ステージシナリオの第2ステージからの着信呼び出し番号のデバッグフィルタリングを設定します。
outgoingcalled-number	発信された番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
発信ダイヤルピア	発信ダイヤル ピアのデバッグ フィルタリングを設定します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

発信ダイヤルピア

発信ダイヤルピアのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタマッチリスト設定モードで **outgoingdialpeer** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

outgoingdialpeer tag

いいえ outgoing ダイヤルピアタグ

構文の説明

タグ	特定のダイヤルピアを識別する桁数。有効な値は 1 から 2,147,483,647 です。
----	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

通話フィルター一致リスト

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、発信ダイヤルピア 12 に一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
  outgoing dialpeer 12
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
incomingcalled-number(callfiltermatchlist)	着信先番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
incomingcalling-number	着信発信番号のデバッグ フィルタリングを構成します。
incomingdialpeer	着信ダイヤルピアのデバッグ フィルタリングを設定します。

コマンド	説明
incomingport	着信ポートのデバッグ フィルタリングを構成します。
outgoingcalled-number	発信された番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
outgoingcalling-number	発信された番号のデバッグ フィルタリングを設定します。
発信ポート	発信ポートのデバッグ フィルタリングを設定します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

発信メディア ローカル IPv4

メディア ストリームを受信する音声ゲートウェイの発信メディア ローカル IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタマッチリストコンフィギュレーションモードで発信メディア ローカル IPv4 コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信メディアローカル**ipv4**IP アドレス
 いいえ発信メディアローカル**ipv4**IP アドレス

構文の説明	IP アドレス	ローカル音声ゲートウェイの IP アドレス
-------	---------	-----------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード 通話フィルター一致リスト

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、IP アドレスが 192.168.10.255 である、ローカル音声ゲートウェイ上の発信メディアに一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
  outgoing media local ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
	debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
	着信メディアローカル ipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの着信メディア IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定してください
	着信メディアリモート ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの着信メディア IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定してください
	着信ポート	着信ポートのデバッグ フィルタリングを構成します。

コマンド	説明
発信メディアリモート ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの発信メディア IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定します。
発信ポート	発信ポートのデバッグ フィルタリングを設定します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

outgoing media remote ipv4

メディア ストリームを受信する音声ゲートウェイの発信メディア リモート IPv4 アドレスのデバッグフィルタリングを設定するには、コールフィルタ マッチ リスト コンフィギュレーション モードで発信メディア リモート **ipv4** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信メディア リモート **ipv4** IP アドレス
 いいえ発信メディア リモート **ipv4** *ip_address*

構文の説明

IP アドレス	リモート IP 端末の IP アドレス
---------	---------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

通話フィルター 一致 リスト の設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、IP アドレスが 192.168.10.255 であるリモート IP デバイス上の発信メディアに一致するように設定された音声通話のデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
  outgoing media remote ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
incomingmedialocalipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの着信メディア IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定します。
着信メディア リモート ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの着信メディア IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを構成します。
着信ポート	着信ポートのデバッグ フィルタリングを構成します。

コマンド	説明
発信メディアローカル ipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの発信メディア IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定してください
発信ポート	発信ポートのデバッグ フィルタリングを設定します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

発信ポート

発信ポートのデバッグフィルタリングを設定するには、通話フィルター マッチ リスト コンフィギュレーション モードで発信ポート コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco 2600、Cisco 3600、および Cisco 3700 シリーズ

発信ポート {スロット番号/サブユニット番号/ポート | スロット/ポート:ds0-group-no}

発信ポートがありません {スロット番号/サブユニット番号/ポート | スロット/ポート:ds0-group-no}

Cisco 2600 および Cisco 3600 シリーズ (高密度アナログ ネットワーク モジュール NM-HDA) 搭載

発信ポート {スロット番号/サブユニット番号/ポート}

発信ポートがありません {スロット番号/サブユニット番号/ポート}

Cisco AS5300

outgoing port コントローラ番号:D

no outgoing port コントローラ番号:D

Cisco AS5400

発信ポートカード/ポート:D

no outgoing port カード/ポート:D

Cisco AS5800

発信ポート {shelf/スロット/ポート:D | shelf/スロット/親:ポート:D}

no outgoing port {棚/スロット/ポート:D | 棚/スロット/親:ポート:D}

Cisco MC3810

発信ポートスロット/ポート

no outgoing port スロット/ポート

構文の説明

スロット番号	VIC がインストールされているルータのスロット番号。有効なエントリは 0 から 3 までで、VIC がインストールされているスロットに応じて決まります。
サブユニット番号	音声ポートがある VIC 上のサブユニット 有効な値は 0 または 1 です。
ポート	音声ポート番号。有効な値は 0 と 1 です。
スロット	音声ポートアダプタがインストールされているルーターの場所。有効な値は 0 から 3 です。
ポート:	音声インターフェイスカードの位置を示します。有効な値は 0 と 3 です。

<i>ds0-group-no</i>	定義された DS0 グループ番号を示します。定義された各 DS0 グループ番号は、個別の音声ポートで表されます。これにより、デジタル T1/E1 カードに個別の DS0 を定義できます。
---------------------	---

コントローラ番号	T1 または E1 コントローラ。
:D	ISDN PRI に関連付けられた D チャンネル。

カード	T1 または E1 カードを指定します。有効なエン트리: カード引数は 1 から 7 です。
ポート	音声ポート番号を指定します。有効な値は 0 から 7 です。
:D	ISDN PRI に関連する D チャンネルを示します。

棚	T1 カード上の T1 または E1 コントローラ、または T3 カード上の T1 コントローラを指定します。有効なエン트리: <i>shelf</i> 引数は 0 から 9999 です。
スロット	T1 カード上の T1 または E1 コントローラ、または T3 カード上の T1 コントローラを指定します。有効なエン트리: <i>slot</i> 引数は 0 から 11 です。
ポート	音声ポート番号を指定します。 • T1 カード上の T1 または E1 コントローラ -- 有効なエントリは 0 から 11 までです。 • T3 カード上の T1 コントローラ -- 有効なエントリは 1 から 28 までです。
:ポート	<i>parent</i> 引数の値を指定します。有効な入力 は 0 だけです。
:D	ISDN PRI に関連する D チャンネルを示します。

スロット	スロット引数は、ルーターの VIC が取り付けられているスロット番号を指定します。有効な入力 は 1 だけです。
------	--

ポート	ポート番号は音声ポート番号を指定します。有効なインターフェイスの範囲は以下のとおりです。 • T1--ANSI T1.403 (1989)、Telcordia TR-54016。 • E1--ITU G.703。 • アナログ音声--最大 6 ポート (FXS、FXO、E & M)。 • デジタル音声-- シングル T1/E1、クロスコネク トドロップおよび挿入、CAS および CCS シグナリング、PRI QSIG。 • イーサネット -- シングル 10BASE-T。 • シリアル-- 2つの5つ1つの同期シリアル (ANSI EIA/TIA-530、EIA/TIA-232、EIA/TIA-449; ITU V.35、X.21、バイシンク、ポーリング非同期)。
-----	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード 通話フィルター一致リストの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、Cisco 3660 音声ゲートウェイの発信ポート 1/1/1 に一致するように設定された音声コール デバッグ フィルターを示します。

```
call filter match-list 1 voice
outgoing port 1/1/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
着信ポート	着信ポートのデバッグ フィルタリングを構成します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

outgoing signaling local ipv4

シグナリングを管理するゲートキーパーの発信シグナリング ローカル IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定するには、コール フィルタ マッチ リスト コンフィギュレーション モードで発信シグナリングローカル ipv4 コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信シグナリングローカルipv4IP アドレス
いいえ発信シグナリングローカルipv4IP アドレス

構文の説明

IP アドレス	ローカル音声ゲートウェイのIPアドレス
---------	---------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

通話フィルター一致リスト

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、IP アドレスが 192.168.10.255 である、ローカル音声ゲートウェイ上の発信シグナリングに一致するように設定された音声コールデバッグフィルタを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
outgoing signaling local ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
デバッグ条件マッチリスト	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
incomingport	着信ポートのデバッグ フィルタリングを構成します。
着信シグナルローカルipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの着信シグナル IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定してください
着信シグナルリモートipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの着信シグナル IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定してください

コマンド	説明
発信ポート	発信ポートのデバッグ フィルタリングを設定します。
outgoingsignalingremoteipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの発信シグナル IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定してください
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

outgoing signaling remote ipv4

シグナリングを管理するゲートキーパーの発信シグナリング リモート IPv4 アドレスにデバッグ フィルタリングを設定するには、コール フィルタ マッチ リスト コンフィギュレーション モードで発信シグナリング リモート **ipv4** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

発信シグナリングリモート**ipv4**IP アドレス
 いいえ発信シグナリングリモート**ipv4**IP アドレス

構文の説明

IP アドレス	リモート IP 端末の IP アドレス
---------	---------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

通話フィルター一致リスト

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、IP アドレス 192.168.10.255 を持つリモート IP デバイス上の発信シグナリングに一致するように設定された音声コール デバッグ フィルターを示しています。

```
call filter match-list 1 voice
outgoing signaling remote ipv4 192.168.10.255
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfiltermatch-listvoice	音声通話のデバッグ用に通話フィルターの一致リストを作成します。
debugconditionmatch-list	音声通話でフィルタリングされたデバッグを実行します。
着信ポート	着信ポートのデバッグ フィルタリングを構成します。
着信シグナリングローカル ipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの着信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定します。
着信シグナリングリモート ipv4	リモート IP デバイスから IP 側へのコールの着信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを構成します。

コマンド	説明
発信ポート	発信ポートのデバッグ フィルタリングを設定します。
outgoingsignalinglocalipv4	ローカル音声ゲートウェイから IP 側へのコールの発信シグナリング IPv4 アドレスのデバッグ フィルタリングを設定します。
showcallfiltermatch-list	通話フィルターのマッチ リストを表示します。

output attenuation

特定の出力減衰値を設定したり、自動ゲインコントロールを有効にするには、音声ポート設定モードで **outputattenuation** コマンドを使用します。選択した出力アッテネーション値を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

出力アッテネーション {デシベル | 自動コントロール[自動dbm]}

いいえ出力attenuation {デシベル | 自動コントロール[自動dbm]}

構文の説明

デシベル	インターフェイスの送信側での減衰 (デシベル (db) 単位)。範囲は 6 ～ 14 です。デフォルトは 3 です。
auto-control	自動ゲイン コントロールを有効にします。
<i>auto-dbm</i>	(オプション) インターフェイスの送信側で達成すべきターゲットスピーチレベル (ミリワットあたりのデシベル (dbm) 単位)。範囲は -30 ～ 3 です。デフォルトは -9 です。

コマンド デフォルト

外部交換局 (FXO)、FXS、耳と口 (E&M) ポート: デシベル: 3 デシベル *auto-dbm*: -9 dBm

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.3(4)XD	デシベルの引数の値の範囲が拡大されました。
12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。
12.3(14)T	このコマンドが Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズに実装されました。
12.4(2)T	auto-control キーワードと <i>auto-dbm</i> 引数が追加されました。

使用上のガイドライン

システム全体の損失プランは、**入力利得** と **出力減衰** コマンドを使用する必要があります。損失対策プランを作成する際には、システム内の他の機器 (PBX を含む) を考慮する必要があります。このコマンドのデフォルト値は、標準的な伝送損失プランが有効であることを想定しています。これは、電話機間で -6 dB の減衰が必要であることを意味します。接続は、**入力ゲイン** と **出力減衰** コマンドがデフォルト値の 3dB で設定されている場合に -6dB の減衰を提供するように実装されています。

公衆交換電話交換網 (PSTN) への信号の増幅度を上げることはできませんが、下げることはできます。音声レベルが高すぎる場合は、入力ゲインを下げるか、出力アッテネーションを大きくすることで、音量を下げるすることができます。

ルーターに入る信号のゲインを上げることができます。音声レベルが小さすぎる場合は、**入力ゲイン** コマンドを使用して入力ゲインを上げることができます。

イヤール & マウス (E&M) 音声ポートでのみ、そのポートの信号タイプが地上移動無線 (LMR) の場合に限り、**auto-control** キーワードと **auto-dbm** 引数が使用可能です。**auto-control** キーワードは、デジタルシグナルプロセッサ (DSP) による自動ゲインコントロールを有効にします。自動ゲインコントロールは、音声が大きすぎたり小さすぎたりした場合に、快適な音量に調整します。無線ネットワークの切断やその他の環境要因により、LMR システムからルーターに到達する音声レベルが非常に低くなる場合があります。自動ゲインコントロールを使用して、音声により快適なレベルで再生されるようにすることができます。ゲインはデジタルで挿入されるため、バックグラウンドノイズも増幅される可能性があります。自動ゲインコントロールは次のように実装されます。

- 出力レベル: -9 デシベル
- ゲイン範囲: -12 dB から 20 dB
- アタックタイム (低から高へ): 30 ms
- アタックタイム (高から低へ): 8 秒

例

Cisco 3600 シリーズルーターで、次の例はインターフェイスの送信側で 3-db の損失が挿入されるように設定します。

```
voice-port 1/0/0
 output attenuation 3
```

Cisco 3600 シリーズルーターで、次の例はインターフェイスの送信側で 3-db の損失が挿入されるように設定します。

```
voice-port 1/0/0
 output attenuation -3
```

Cisco AS5300 で、次の例はインターフェイスの送信側で 3-db の損失が挿入されるように設定します。

```
voice-port 0:D
 output attenuation 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
comfort-noise	VAD がアクティブになっている場合、通話中にバックグラウンドノイズを生成して無音のギャップを埋めます。
echo-cancelenable	インターフェイスから送信され、同じインターフェイスで受信される音声のキャンセルを有効にします。

コマンド	説明
inputgain	特定の入力ゲイン値を設定するか、音声ポートの自動ゲイン コントロールを有効にします。

オーバーヘッド

ネゴシエートされたオーバーヘッド帯域幅の割合を設定するには、メディアプロファイル設定モードで **オーバーヘッド** コマンドを使用します。設定を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

オーバーヘッド {音声 | ビデオ} パーセンテージ
no overhead {音声 | ビデオ}

構文の説明

音声	音声オーバーヘッドの割合を設定します。
ビデオ	ビデオ オーバーヘッドの割合を設定します。
パーセンテージ	オーバーヘッドの割合 値の範囲は 0 ～ 50 です。

コマンド デフォルト

ネゴシエートされたオーバーヘッド帯域幅が構成されていません。

コマンド モード

メディアプロファイルの設定 (cfg-mediaprofile)

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

オーバーヘッド帯域幅は、音声およびビデオコールのネゴシエートされた帯域幅とは別の追加の帯域幅です。したがって、ポリシング帯域幅の合計は次のようになります。

ポリシング帯域幅 = ネゴシエートされた帯域幅 + (1 + % オーバーヘッド帯域幅)

例

次に、音声コーデックのオーバーヘッド帯域幅を10%、ビデオコーデックのオーバーヘッド帯域幅を20%に設定する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# media profile police 1
Router(cfg-mediaprofile)# overhead audio 10
Router(cfg-mediaprofile)# overhead video 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
メディア プロファイル ポリシング	メディア ポリシングプロファイルを設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。